

三位一体説

原田元道

唯一まことの神は
父、子、聖霊という異なる三つの位格(いかく)をもち
それら三つはそれぞれ 100%完全に神である

聖書的根拠

- 唯一まことの神が存在
 - 「あなたは、今日、上の天においても下の地においても主こそ神であり、ほかに神のいないことをわきまえ、心に留め」(申命記 4:39)
 - 「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」(ヨハネ 17:3)
- 異なる三つの位格が存在
 - 「位格」はラテン語 *persona*(ペルソナ)の訳語(英語では *person*) : ペルソナという言葉は元々は演劇用語だった(一人の人が複数の役を演じる時、その役者は仮面をかぶり、役柄(*persona*)を変えるごとに別の仮面にかぶり変えていた)
→位格=ある人格・個性・役割をもった主体
 - 三つの位格の関係性
 - ◇ 父なる神が計画を立て、子なる神と聖霊なる神を遣わす
「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」(ヨハネ 3:17)
「しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。」(ヨハネ 14:26)
 - ◇ 子なる神は父なる神の指示に従う
「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」(フィリピ 2:6-8)
 - ◇ 聖霊なる神は父なる神と子なる神の指示に従う
「しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。」(ヨハネ 16:13-14)
→神としての本質は等しいが(天地万物に対する)働き・役割においては従属関係が存在
- 各位格は完全な神として存在
 - 子なる神イエス
 - ◇ イエス=神
「また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。」(テトス 2:13)
 - ◇ 全知性：人の心が分かる(マタイ 9:4; 12:25)、初めて会った人の生活状態が分かる(ヨハネ 4:16-18)、未来が分かる(マタイ 16:21; 26:23, 34)
 - ◇ 永遠性：アブラハムの誕生前から存在している(ヨハネ 8:58 ; 比較：コロサイ 1:15)
 - ◇ 全能性：嵐を鎮める(マタイ 8:26-27)、パンと魚を増やす(マタイ 14:19-21)、死人を生き返らせる(マルコ 5:35-43 ; ルカ 7:12-15 ; ヨハネ 11:38-44)
 - ◇ 遍在性(復活後)：いつも共にいる(マタイ 28:20 ; 比較：マタイ 18:20)

ブログ(<https://fortheperson.jp>)もご覧ください

◇ 神の力・権威・権力：天地万物を創造した(ヨハネ 1:3；コロサイ 1:15-16；ヘブライ 1:2)；罪を赦す(マルコ 2:5-12；使徒 7:60；13:38-39；コロサイ 3:13)

➤ 聖霊なる神

◇ 聖霊を欺く＝神を欺く(使徒 5:3-4)

◇ 全知性：全てのことを知っている (I コリント 2:10-11)

◇ 永遠性：永遠の昔から永遠の未来にわたるまで存在している(ヘブライ 9:14)

◇ 偏在性：同時にあらゆる場所に存在する (詩編 139:7-10)

⇒神の本質(存在)は一つで異なる位格が三つ

意義・重要性

・ 聖書から外れた教え・教義を見極めるために必要不可欠

➤ 異端の多くは三位一体説を否定(例：エホバの証人、モルモン教など)

←三位一体説は人間の理性・論理では理解できない

→三位一体説は人間には作り出せない(神が人間に与えた「神秘」)

→神は人間の理解を超えた存在

・ 健全な信仰態度を養うために必要不可欠

➤ 三位一体の「神秘」を受け入れる姿勢・態度が重要

◇ 神の前にへりくだり、自分の知恵や知識、経験ではなく神の知恵と力にすぎる

◇ 完全に理解できないことがあっても、神と聖書(神の言葉)を信じて信頼する

・ 神が神であるために必要不可欠

➤ 神の愛は三位一体の神の間で自己完結

←神の存在は被造物に依存しない

→神は天地万物を創造し、自ら(子なる神)の命をかけて人々を救おうとしている

→損得勘定ではない自己犠牲の愛

⇒神の大きさと愛を知らしめ、神への畏れと信頼を深めさせる

まとめ

・ 神の本質(存在)は一つ、位格は三つ

➤ 唯一まことの神が存在

➤ (天地万物に対する)働き・役割が異なる三つの位格が存在

➤ 各位格は完全に神として存在

・ 神への畏れと信頼を深めさせる神秘

➤ 神は人間の理解を超えた存在

➤ 神の愛は損得勘定ではない自己犠牲の愛

「あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。」(エフェソ 2:18-21)

【補足：三位一体の(不完全な)たとえ】

水(氷、水、水蒸気)、心(思考、記憶、意思)、卵(殻、白身、黄身)、家族(父、母、子)など